
CEニュースター

発行：日本アッセンブリーズ・
オブ・ゴッド教団
教会教育部
第4号
2004年9月

Boys be ambitious!

教育局長 川上良明

「少年よ大志を抱け」一懐かしい言葉ですね。多くの日本人におなじみのものです。この言葉は、札幌農学校（北大）ウィリアム・S・クラーク博士が、1877年（明治10年）に見送りに来た学生に残した言葉として有名です。博士が日本に滞在したのはわずか8ヶ月でしたが、そのときの教え子の中から、内村鑑三や新渡戸稲造等、その後の日本の教育・政界に多大な影響を残した人材を輩出したことでも知られています。私も若き日に、この言葉でこころ熱くされたことを思い出されますが、また、この言葉は、今日の青少年に失われている大切なものを教えているのではないのでしょうか。青少年の心を蝕む犯罪の魔の手がはびこり、深刻な社会問題を引き起こしています。また、子どもたちのこころから夢や希望をも奪い取っています。ゲームやパソコンの仮想現実のみ込まれた子どもたちからは、生気や輝きまでも失われています。一体、このような子どもたちを救い出すことが可能なのでしょうか。主イエス様は「人にはそれはできないが、神にはなんでもできない事はない」（マタイ 19・26）と言われました。そうです！

今こそ教会の出番です。子どもたちに夢と希望を与え、仮想現実から救い出すことのできるものは、聖書以外にありません。子どもたちの霊的必要、知的必要、社会的必要、肉体的必要に応えられるのは、聖書のみことばだけです。



ある小学校6年生の作文を紹介します。「僕の夢は一流のプロ野球選手になることです。そのためには中学・高校と全国大会に出て活躍しなければなりません。活躍できるようになるためには練習が必要です。僕は3歳の時から練習を始めています。3歳から7歳までは半年くらいやっていたのですが、3年生の時から今までは365日中360日は厳しい練習をやっています。だから、一週間で友達と遊べる時間は5、6時間です。そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。そして、その球団は中日ドラゴンズか、西武ライオンズです。ドラフト入団で契約金は1億円以上が目標です。僕が自信のあるのは投

手が打撃です。去年の夏、僕たちは全国大会に行きました。そして、ほとんどの投手を見てきましたが自分が大会ナンバーワン選手と確信でき、打撃では県大会4試合のうちホームラン3本を打ちました。そして、全体を通した打率は5割8分3厘でした。このように自分でも納得のいく成績でした。そして、僕たちは1年間負け知らずで野



球ができました。だから、この調子でこれからもがんばります。そして、僕が一流の選手になって試合に出られるようになったら、お世話になった人に招待券を配って応援してもらうのも夢の一つです。とにかく一番大きな夢は野球選手になることです。」

実はこの作文を書いた少年は、現在、アメリカのメジャー・リーグで活躍しているイチロー選手です。小さな時からしっかりとした目標を持ち、自分の描いた壮大な夢を素直に信じ、実現に対していささかの迷いもなく、

周りの人々に対する感謝の姿勢に至っては頭が下がります。

わたしたちの地域や教会には、神様に用いられる未来のメジャー選手候補が大勢います。子ども伝道のリバイバルは、教会のリバイバルに繋がると信じます。今こそ子どもたちを、悪魔の手から救い出し、真理のみことばによって、夢と希望を与えるために、立ち上がろうではありませんか。今がその時です。この時の為に、忍耐して祈り続け、準備をしてきたのです。

教会の未来を継承する子どもたちの救いと成長のために、共に、情報を分かち合い前進して行きましょう。



東海教区子弟キャンプ報告

豊橋キリスト教会 小石 崎子

「またこのキャンプに来たい人！」

「ハーーイ」



2004年度、第16回のクリスチャン子弟キャンプが3月29-31日、浜名福音荘にて行われました。今は年1回のキャンプとなりましたが、教区こそって、講師をはじめ先生方も、全ての奉仕を、信徒の皆さんと共に負ってくださいます。福音荘の裏山で摘んでくださった「わらび」がおかずに加わるなど、温かなファミリーキャンプのようでした。

テーマ 「Receive」信仰のバトンタッチ

「救いを受け継ぐべき人」(ヘブル 1:14)

開会礼拝では、渋沢道忠師が、大きな手術の後でしたが、「愛着」という言葉を心に刻んでくださいました。イエス様が私たちを「愛着」くつつくほどに愛してくださいるのなら、私たちもその愛にお答えして、イエス様にもっともっと「愛着」して行きましょうと力強く語られました。

オリエンテーションでは佐野徳子師が、「あかさたな」で楽しく指導してくださり、あ（挨拶する）、か（買い物しない）、さ（騒がない）、た（おふとんをタタム）、な（仲良し）などを話してくださいました。

三回のバイブルスタディでは

(1) 小石豊師「イエス様と12弟子」

イエス様は原型。弟子たちはコピー。私たちはコピーのコピー・・・(エペソ 2:10, 19)

また、12弟子の歌を賛美して、「さあ、皆は12弟子のだれに似ていると思うかな？」と問いかけ、「シャローム」主の平安がありますように・・・と挨拶を交わしました。

(2) 渋沢清子師「変えられたマルコ」

マルコはどのようにして神様の働きに役立つ人になったのでしょうか。失敗しても、弱い時もイエス様と共に歩み、友達、家族と祈り助け合いましょう。「人」という時は互いに支え合っていて励ましてくださいました。(IIテモテ 4:6-11)

(3) 藤本幸雄師「ペテロさん」

ペテロはイエス様が大好きだった。すぐに行動する人。でも、イエス様を三回も知らないと言ってしまった。しかし、復活のイエス様に出会い、変えられ許され、聖霊に満たされて、大きな働きをしましたと、熱く語りかけられ、先生の招きに応じて全員講壇の前に座り、聖霊の力、満たしを求めて、先生方に助祷していただき祈り合いました。涙を流して祈るお友だち、いつまでも先生と共に祈りしているお友だち・・・みんなみんな主の弟子にしてください！



閉会礼拝では、私（小石崎子）が、始めに「さあ、みんな目を閉じてね。またこのキャンプに来たい人は手を上げてください」と問いかけると、「ハイ！」ほとんど全員、先生方も手を上げてくれました。終わりに「たいせつなきみ」シリーズ五冊（マックス・ルケード著）を紹介し、「バラはバ

ラのように、すみれはすみれのように、そのままの姿で着いて行きます」と賛美し、静かな安らぎを覚えました。(イザヤ 43:4)

工作では男子は信仰のバランスを学びつつ、平均を考えながら、ヤジロベエのような「バランス」に挑戦し、楽しい作品ができました。女子は神様が創られた花々を押し花にして、個性豊かな「額の花」と「しおり」を作りました。

なお、佐野信幸さんが手品をしてくださり、皿回しの実演をさせてもらったりして、楽しい時をもちました。また、ゲーム「12弟子バトンタッチ」で、弟子の名前も覚えられました。

やがての日、参加した子どもたちの中から、献身者が生まれ、主の弟子となる器が育つことを望みつつ、それぞれに山を下って行きました。



いわきアッセンブリー教会の公園伝道

いわきアッセンブリー教会 奥田 冬樹

1. 公園伝道の概況

いわきアッセンブリー教会では、木曜日曜の週4回、近くの公園で公園伝道を行なっています。時間は原則として午後3時から4時半で、出席者は、小学生中心に10数人が集まっています。多いときは30人弱になります。



2. 公園伝道の経緯

私たち夫婦が着任した2002年は、教会では子ども伝道が休止されていました。すぐにも公園伝道を始めたい思いがありましたが、この年は教会全体で祈って備えることにしました。数ヶ月の間いろいろと公園を見ていたところ、子どもたちが結構遊んでいるのを目にしました。特に朝の通学時間帯には、列をなして大勢の子どもたちが通学していました。教会の近くの小学校は、福島県でも一番児童数の多い小学校でした。子ども伝道を開始したのは、この年の12月です。こどもクリスマス会を教会で開くことにしました。目標20人で祈っていたのですが、中学生を含めてちょうど20人来ました。学校の近くで、チラシを配布したのですが、ほとんどすべての子どもがチラシを受け取ってくれました。すごく素直で純粋な子どもたちばかりだったので驚きました。その後、年が明けた1月から写真の公園で公園伝道を開始しました。

3. 公園での子どもたちの様子

最初の公園伝道に小学生の男の子が数人来ました。聖書の話をして遊んだのですが、礼儀正しい子どもたちでした。その男の子達はイエス様の十字架の話を素直に聞いて、信じる決心をしました。細田先生が、「人数を追ってはいけません。ひとりを実際に導きなさい。」と言われていたそうなので、そのことを心に留めました。そのうちのひとり



の男の子は、公園の中ではリーダーシップを発揮し、よく仲間をまとめています。私がドッジボール中に自転車とぶつかって倒れた時には、さっとやってきて手を置いて、イエス様のお名前によっていやされるようにお祈りをしてくれました。今では公園伝道の中心メンバーになっています。教会のいろいろな行事にも、毎回友達と一緒に来てくれます。今、教会でドラムの練習をしています。

4. 公園伝道のパターン

いつもの公園伝道は、誰かが教会に迎えに来ることから始まります。大人だけで公園伝道に行くのは多少の勇気がいりますが、子どもたちが教会に誘いに来てくれるので助かります。公園伝道グッズの入った袋を抱えて、ドッジボール用のボールをもって子どもたちと一緒に公園に行きます。直接公園に行くのは、私たち夫婦です。子どもたちからは「教会さん」、「教会さんの奥さん」と呼ばれています。

公園に着くとまず遊びます。だいたいドッジボールをします。一通りやって疲れてきたら休憩にします。休憩のときに、公園の真ん中のベンチに集まって、そこで聖書のお話をします。その後、また遊びを続けるというパターンです。

5. 公園伝道でのお話の内容

クイズや間違い探しなどでお話を始めると、結構みんな集まって、のってきます。そして、短く聖書のお話しをして、みことばを一緒に読んで、みことばの暗唱をします。十字架の絵を必ず持参して、はじめての子がいたら必ず十字架のお話をするようにしています。みことばを書いた紙を持っていくので、それに応じたお話をします。その場面の絵なども持参します。とにかく回数が多いので、あっという間にねた切れになってしまいます。常に新しい視覚教材を必要としています。お話が短すぎると、それだけ？という声があがってしまいます。

6. 公園伝道での遊び

公園伝道でのドッジボール以外の遊びは、サッカー、鬼ごっこ、ザフト（缶けりのようなゲーム）、野球、ハンドベース、大縄、リレーなどです。

サッカーを習っている子が多く、サッカーをやりたいという声は毎回のようにあがります。確かに上手です。丘の上にアスレチックがあるので、そこを使った鬼ごっこも最近をよくしています。アスレチックを使うと決まってけがをする子がでるので、救急箱はいつも持参しています。



7. 公園伝道の今後

週4日の公園伝道で子どもたちとの信頼関係も強くなり、教会にも頻繁に子どもたちがやってくるようになりました。三箇先生の勧めで、ドラムなどの楽器の練習も始めました。何か手伝いたいという子もいて、奉仕の場もいろいろと提供しています。お菓子を一緒に作ったりもします。出会った子どもたちがしっかりとイエス様に結びつき、洗礼を受け、礼拝にも集い、素晴らしい実を結ぶクリスチャンになってほしいというのが今の私たちの願いです。

*** ** ** ** **



Jーキッズ

新松戸リバイバルチャーチ

2002年4月より公立学校の週休二日制が導入されたのに伴い、小学生が土曜日にのびのびと過ごせる場所をとという保護者の声から生まれたのが、ボランティアサークル Jーキッズ。ボ

ランティア活動を軸に、子ども達が主体的に考え、話し合い、行動していける場を提供していくことを基本方針にしている。非行に走る子ども達を一人でもなくしたい、地域の救霊のために出来る事から始めようということで、土曜日の午前中 10時から2～3時間でスタートした。

活動は毎月3回ほどで、今までの活動内容を一部紹介すると、高齢者施設や養護学校の訪問、視覚障害体験、車椅子の講習会、歩道・公園などのごみ拾い、教会お泊り会(8月)など。





タログで、みことば入りの文具や玩具、信仰図書などを購入することができる。



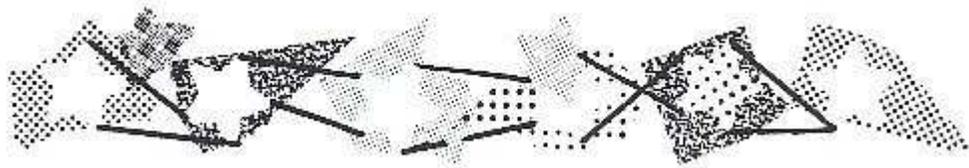
心がけている。心の教育として、みことばを用いて聖書を土台とした道徳的な話しをする時間も設けている。カリキュラム削減による学力低下を心配する声もあり、学習の時間も持っている。その後ボランティア活動や工作やレクリエーション活動を行っ



ています。子ども達の自主性を尊重するというこ

このJーキッズの中から救われる魂が出ることを願い、そのための祈り手となるために、「祈りの里親」を教会員の中から募集した。現在すべてのノンクリスチャンの子どもが誰かに祈られている。Jーキッズで聖書に関心を持つようになり、日曜日の教会学校に定着した子どももいる。

現在与えられているスタッフは10名ほど。毎回3~4名でローテーションを組んでいる。全員が訓練途中で、スタッフの合い言葉は「Jーキッズの担任はイエス様！」である。この働きは現在は小さいが、神様が押し出すようにして始めてくれたこの働きに、神様ご自身は大きな期待とビジョンを持っておられることと信じている。



教会教育部より

教会教育部部長 綾部裕子

「日曜学校部」が2004年度から「教会教育部」と名称を変更することになりました。それに伴い「SS（日曜学校）」を「CS（教会学校）」に改めることになり、種々のお手紙、文章の中でもCSという使い方に変えさせていただきます。

なお、「SSニューズレター」は今回より「CE（教会教育）ニューズレター」と名称を変更し、教会教育全般にわたる情報をお送りできるように努めて参りたいと思っています。

昨年、CE教材のサンプルとして、その一部を入れましたCD-ROMを全教会にお送りいたしました。そのアンケートにお答えくださった教会には「CE教材2004」を送らせていただきました。さらにアンケートを元に改善した「CE教材2004第2版」を今年10月に全教会にお送りできるように現在準備中です。さらにこの内容はホームページで見ただけのようにホームページの制作も進めております。

教会教育部への献金のお願い

教会教育部の活動は諸教会からのCS献金（原則としてCS席上献金の10分の1が初期の頃から決められていました）によって支えられています。2001年から次第に捧げてくださる教会が増え、現在約80教会が捧げてくださり、献金額も年々上昇しています。ご献金くださっている諸教会のCSに、主にあつて心から感謝いたします。

これからもより多くの教会のCSがCS献金にご協力くださいますように、また教団全体のCS活動の活性化のためにさらにお祈りくださいますように心からお願ひ致します。

報告を送って下さった教会・教区に心からお礼を申し上げます。今後さらに多くの情報を提供していきたいと思っておりますので、各教会からの報告やアイデアをCE部（教会教育部）にお送り下さると幸いです。

日本の子どもたちの救いを祈り、各教会のCSの働きのために祈ります。

教育局長：川上良明 CE部：綾部裕子 藤井敬朗 和田佳士